

講義名	教養特講（異文化理解と観光を考える）			授業形態	
担当教員	辻本 千春 / 辻本 千春		開講期・曜日・時限	後期 金曜日 5 時限	
	単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング

主題と概要

異文化理解に関しては国の考えとして文科省の説明があります。「多様な人々との日常的な交流が拡大する中にあるのは、異文化や異なる文化をもつ人々を理解するだけでなく、理解した上で、それらを受容しながら共生することのできる力が重要となる。（一部省略）異文化や異なる文化を有する人々に対して敬意を払い、理解し受容することは、自分自身の国やその歴史、伝統・文化を理解・尊重し、その上に立脚した個性をもつ一人の人間として自己を確立することによってはじめて可能となる。そのためには、自らを知り、自分らしさを受入れ、自分なりの判断基準を持ち、国際化した社会の中で生きる個人としての準備を整えていくことが必要である。」まさに観光は国内外を問わず、その場所を訪れてその場所について知ることで自らも満足することができます。したがって訪問場所について詳しく前もって知ることも重要です。この講義では、異文化理解をいりるな視点から学ぶことによって、学生自身の知識を身につけるとともに新しい発見をすることで自らの成長につなげてもらいたいと考えます。

到達目標

- 知識・理解
 - 観光の定義について説明できるようになる。
 - 観光における異文化理解の重要性を説明できるようになる。
- 思考・判断
 - 自国・地域の異文化を理解することができるようになる。
- 関心・意欲
 - 実際の観光に際して学んだ知識を十分に役立てることができるようになる。
- 技能・技術
 - 興味ある国や地域に関してさらに調べることができるようになる。
- その他
 - 学んだ知識やノウハウを地域の活性化に生かすことができるようになる。

提出課題

- ・毎回、授業内容の振り返り（レポート）を書いてもらいます。
- ・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・振り返り（レポート）の回答から読み取れる皆さんからの疑問や誤った理解に対して、次週の授業のはじめに解説・修正します。
- ・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。

評価の基準

- ・毎回の振り返り（レポート）提出状況50%、期末テスト（または期末レポート）50%とし、総合的に判断します。授業回数の3分の1（5回）以上課題、レポート提出がない場合は単位は取得できません。
- ・欠席は減点対象となります。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業で学ぶ基本は重要ですが、観光に関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい観光の情報も入手してください。
- ・基本は教科書に沿って授業を進めます。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

- ・必要に応じてプリントを配布します。
- ・参考文献・・・必要があれば紹介します。

授業計画

- はじめに（授業計画、授業の目的、進め方など）観光の現状
- 世界の宗教
 - イスラム教（ムスリム）他
- 世界の宗教
 - キリスト教他
- 食文化
 - ムスリム
- 食文化
 - ベジタリアン他
- 食文化
 - 日本食（ユネスコ文化遺産）
- 社会生活文化比較
 - アジアの国々
- 社会生活文化比較
 - ヨーロッパの国々
- 社会生活文化比較
 - 北米の国々
- 海外事例
 - アジア1
- 海外事例
 - アジア2
- 海外事例
 - メディカルツーリズム
- 海外事例
 - 九州オウル
- 海外事例
 - ロングステイ
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度
- ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容をよく理解し整理してください。2時間程度
- ・観光に関する情報は日々新しくなっていますので、教科書以外にも新聞やメディアのニュースを積極的に読んで入手してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群で、専門分野・領域にとらわれず時機に応じて開講している。この授業は観光についての理論的な学びと異文化理解についての学びを含んでいる。国内観光だけでなく国際観光も変化し、特にインバウンドの目覚ましい伸びがあり、その点でも観光の変化が大きくなっている。異文化理解を通して観光や観光産業に興味を持ち、学んだ知識を生かせるように理解してもらいたい。このことを通じて、全学共通のディプロマポリシーの次の項目の達成に役立つ。

- ・知識を応用し転換することができる。論理的思考力を持った人財
- ・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報収集力）
- ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
- ・現象や事実のなかに隠れている問題点やその裏面を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）
- ・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり

- ・近畿日本ツーリスト株式会社において、主に海外旅行プログラムのソリュ、ショー営業、つまり個人旅行ではなく組織や団体の問題を解決するための企画を約30年間担当しました。その間に身につけた知識や情報その入手法を含めて、旅行企画や観光、観光専攻における具体的な内容を講義するとともに、退社後に大学院で学んだ「観光による地域活性化」について一掃に考えます。また、タイのバンコクでの4年間の駐在経験をもとに、海外で働くことの意義や海外から日本を見ることが大切さも伝えます。

備考

- ・この科目は観光を異文化理解の視点から学びます。実際の観光・旅行にも役立つ内容も含まれますので、実践として理解してください。